



BIRTHDAY

成育疾患克服等総合研究事業

2023

女性の健康の包括的支援
実用化研究事業



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

ゲノム・データ基盤事業部 医療技術研究開発課
創薬事業部 医薬品研究開発課
疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課



女性の健康の包括的支援実用化研究事業

Project for Whole Implementation to Support and Ensure the female life

女性がより良い生涯を選択するための健康を提供できるような社会づくりを視野に入れ、女性の健康や疾患についての問題を、心身における性差も加味し、かつライフステージの軸で多面的にとらえた研究開発とその実用化を推進します。

思春期

性成熟期

更年期

老年期

1. 女性特有の
疾病に関する
研究

1-1. 女性ホルモンが健康に及ぼす影響

(月経関連疾患、更年期運動器疾患、就労女性の心身の健康問題、女性のスポーツ障害等)

1-2. 女性特有の臓器等に関する疾病

(子宮・卵巣等)

1-3. プレコンセプション期女性に特有の疾患 予防に関する包括的ケア方法の確立 若年女性に特有の疾患予防

(月経不順、過度のやせ・肥満等)

2. 男女共通課題の
うち特に女性の
健康に資する研究

2-1. 性差に関わる研究

(疾患性差・至適薬物療法など)

事業概要

近年、女性の就業率の上昇、初産年齢の上昇、生涯出生数の減少、平均寿命の伸長等に伴い、女性の健康に関わる問題は大きく変化してきています。また、女性の心身の状態は思春期、妊娠・出産期、更年期、老年期といった、ライフステージごとに大きく変化するという特性があります。こうしたことを踏まえ、女性が生涯にわたり健康に生活できるよう、必要な情報提供を行い、ライフステージごとの課題に応じて包括的に支援していく必要があります。

本事業では、女性の健康に関する課題解決を目標とし、人生の各段階に応じてその心身の状況が大きく変化する女性の生涯を通じた健康や疾患について、心身における性差も加味し、かつライフステージの軸で多面的にとらえ、エビデンスに基づく「予防／診断／治療／予後・QOL」についての研究開発とその実用化を推進します。

PS・PO

●プログラムスーパーバイザー(PS)

武谷 雄二

医療法人社団レニア会 理事長

●プログラムオフィサー(PO)

緒方 勤

浜松市医療公社浜松医療センター 常務理事・院長補佐

小松 浩子

日本赤十字九州国際看護大学 学長

澤田 典絵

国立がん研究センター がん対策研究所 コホート研究部 部長

高橋 孝雄

新百合ヶ丘総合病院 名誉院長・発達神経学センター長

高松 潔

東京歯科大学市川総合病院産婦人科 教授



女性の健康の包括的支援実用化研究事業

Project for Whole Implementation to Support and Ensure the female life

1. 女性特有の疾病に関する研究

女性ホルモンの影響による疾病の 予防・治療に資するライフコース研究

令和3年度採択

林 邦彦

群馬大学 理事 (教育・評価担当)

ライフコース研究から、思春期・若年成人期、挙児希望期・妊娠出産期、周閉経期以降の各ライフステージにおける適切な予防・治療のエビデンス創生を行い、女性の生涯を通じた健康管理に貢献することを目的とします。

ライフステージに応じた子宮内膜症の 予防・治療のためのエビデンスの創出

令和3年度採択

大須賀 穰

東京大学 医学部附属病院 教授

子宮内膜症・子宮腺筋症と併発する不妊症、月経困難症、卵巣の癌化、周産期合併症などの健康問題の予測は困難です。本研究では、子宮内膜症・子宮腺筋症に合併する健康問題に関連するゲノム異常や分子機序を調べ、子宮内膜症・子宮腺筋症に伴う健康問題に適切な予防策を講じるためのエビデンス創出を目指します。

MRIによる子宮筋腫のサブタイプおよび 組織構成の非侵襲的な予測法に関する研究開発

令和4年度採択

杉野 法広

山口大学 大学院医学系研究科 産科婦人科学講座 教授

子宮筋腫には組織構成・薬効が異なるサブタイプがあり、その情報が予め得られれば治療に有効である。本研究ではMRI画像情報を用い、非侵襲的にサブタイプ・組織構成を予測する判別器を開発し、臨床応用する。

子宮内膜ゲノム情報に基づいた 子宮内膜症の病態解明と発症予測モデルの開発

令和4年度採択

吉原 弘祐

新潟大学 医歯学系 (産科婦人科学) 教授

子宮内膜症の発生起源である子宮内膜のゲノム異常は同定されていますが、その意義は明らかになっていません。本研究では内膜ゲノムの分子生物学的特徴を明らかにし、内膜ゲノム情報に基づいた子宮内膜症発症予測モデルの開発を目指します。

プレコンセプション期の健康管理最適化 実現のためのリアルワールドデータ等 大規模データを活用したエビデンス創出

令和4年度採択

甲賀 かをり

東京大学 医学部附属病院女性診療科 病院診療医

妊娠しやすく、安全に出産し、生まれた子供も健康であるためには妊娠前からの生活が大切です。具体的な健康管理法はわかっておらず国民の知識も非薄です。本研究では大規模データを用い、その方法を探索し国民へ発信します。

うつ・不安症状を伴う更年期障害患者に 対するピロドキサミンの臨床開発

令和5年度採択

寺内 公一

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 茨城県地域産科婦人科学講座 寄附講座教授

われわれはこれまで更年期症状とビタミンB6との関連について報告してきました。本研究ではビタミンB6の一種であるピロドキサミンが更年期の精神症状に対して有効であるかどうかを評価します。

2. 男女共通課題のうち特に女性の健康に資する研究

女性特有の慢性疼痛緩和を目指した 痛みの性差形成機構の解明

令和3年度採択

木口 倫一

和歌山県立医科大学薬学部生体機能解析学研究室 准教授

本研究では、神経・グリア細胞の性差に立脚した研究手法によって性依存的な慢性疼痛病態分子基盤を明らかにするとともに、女性の生活の質を飛躍的に改善できる新たな治療戦略の確立に向けたマイルストーンを明示します。

非閉塞性冠動脈疾患患者における 冠動脈機能の性差に関する研究開発

令和3年度採択

高橋 潤

東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学分野 准教授

非閉塞性冠動脈疾患 (INOCA) は、閉経後女性に多く、活動性の低下・生活の質低下の原因となります。本研究ではINOCA患者における冠動脈機能異常の性差を明らかにし、女性INOCA患者の病態に迫ります。

性差をみとめる運動器疾患の病態の解明と それに基づく診断・治療・予防戦略の開発

令和4年度採択

田中 栄

東京大学医学部附属病院・整形外科 教授

要介護の原因となる運動器疾患はまだ予防法が確立していません。本研究では異なるデザインの cohorts 研究の結果から骨粗鬆症、サルコペニア、フレイルの診断、治療、予防法の解明に取り組み AI を活用して一次予防ソフトを開発します。

女性のライフサイクルにおけるイベント特有の病態が脳卒中発症 における性差に与える影響とそれを用いた脳卒中発症を予測する スコアを既存のビッグデータを用いて開発する研究

令和4年度採択

吉松 淳

国立循環器病研究センター 産婦人科部 部長

脳卒中の発症には性差があることがわかっていますが、その性差に女性が経験するライフサイクルイベントがどのように関与しているかは知られていません。本研究でその因子を探索し、より精細な発症予測スコアの完成を目指します。

性差を考慮した心不全の発症機序の解明 および予防戦略の開発

令和5年度採択

瀧本 英樹

東京大学 医学部附属病院 循環器内科 講師

左室駆出率が正常な心不全 (HFpEF) は閉経後女性での増加が顕著ですが、その性差の機序は解明されていません。本研究では男女の心不全患者の検体をマイクロRNAや性差を軸として解析し、機序解明や予防戦略開発を目指します。



国立研究開発法人 **日本医療研究開発機構** ゲノム・データ基盤事業部 医療技術研究開発課

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-7-1 読売新聞ビル TEL:03-6870-2221

(成育疾患克服等総合研究事業)

E-mail : birthday-ask@amed.go.jp URL : <https://www.amed.go.jp/program/list/14/03/004.html>

(女性の健康の包括的支援実用化研究事業)

E-mail : wise-ask@amed.go.jp URL : <https://www.amed.go.jp/program/list/14/03/006.html>